

異常気象と 防災気象情報を考える —気象災害にどう備えるか—

近年、豪雨、猛暑、大雪など、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼす気象災害が各地で発生しています。新潟県においても、多様な気象災害への備えが求められており、気象の変化や地域の災害特性を正しく理解し、防災気象情報を日頃の備えや早めの判断・行動に役立てていくことが重要です。

本講演会では、気象・気候ダイナミクスの専門家である三重大学の立花義裕教授をお招きし、異常気象や気候変動について、気象学・気候学の視点から分かりやすく解説して頂きます。あわせて、新潟地方気象台長が、新潟県における気象災害の特徴や、防災気象情報を早めの判断・行動につなげるための考え方について講演します。また、NHK新潟放送局が、報道の立場から見た防災気象情報の伝え方について紹介し、気象情報がどのように私たちに届けられ、命を守る行動につながっていくのかを考える機会とします。さらに、新潟大学災害・復興科学研究所から、2022年8月下越豪雨時の土砂災害に関する話題提供を行い、防災気象情報に対する議論を深めたいと思います。



日時 2026年10月20日(火)
13:30～17:00 (開場13:15～)

会場 対面：NINNO3(ニーノ3) 会議室 RoomF
新潟市中央区天神1-1 プラカ3 B1F

タイムスケジュール

13:30	開 会	
13:30～13:40	開会挨拶	新潟大学 学長 染矢俊幸 新潟大学災害・復興科学研究所 所長 ト部厚志
13:40～14:40	基調講演	「流行語大賞『二期』提唱者が語る極端気象と気候災害のなぜ」 三重大学大学院生物資源学研究所 教授 立花義裕
14:40～14:50	質疑応答	
14:50～15:00	休 憩	
15:00～15:30	講 演 1	「防災気象情報の活用～新潟県の気象災害事例を踏まえて～」 新潟地方気象台 台長 竹内綾子
15:30～16:00	講 演 2	「NHKアナウンサーの“命を守る呼びかけ”～最新事例報告～」 NHK新潟放送局 アナウンス副部長 佐藤俊吉
16:00～16:30	講 演 3	「線状降水帯の発生による土砂災害の特徴：2022年8月下越豪雨の事例」 新潟大学災害・復興科学研究所 准教授 西井稜子
16:30～16:50	質疑応答	
16:50～17:00	まとめ・閉会挨拶	新潟地方気象台 次長 斉藤 秀
17:00	閉 会	



三重大学大学院
生物資源学研究所
立花 義裕 教授

参加費無料

対 象 者 一般・学生
会場定員 81名

どなたでもご参加いただけます。

定員になり次第締め切らせていただきます。
※オンライン参加も受け付けています。

申込方法

申込締切／2026年10月15日(木)16時まで
メールにて、新潟大学災害・復興科学研究所事務局
nhdr_office@gs.niigata-u.ac.jp まで
申し込んでください。

メールの件名／10月20日 防災気象講演会参加希望

メールにて、お名前、ご連絡先、ご所属、職名(学生の方は学年)をご連絡下さい(個人情報は本件以外に使用しません)。なお、オンラインでの参加をご希望の場合は、同メールで別途申し込みください。オンライン接続(Zoom)に関する情報を返信いたします。

主催：新潟大学災害・復興科学研究所、新潟地方気象台

共催：NHK新潟放送局

後援：日本赤十字社新潟県支部

問い合わせ先

新潟大学災害・復興科学研究所事務局

電話：025-262-7051(代)

E-mail nhdr_office@gs.niigata-u.ac.jp

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。